

≪毛呂山特別支援学校の活性化・特色化方針≫

種別	知的障害	学部・ 学科	小学部・中学部・高等部	R5.5.1 児童・ 生徒数	(男)120名 (女)54名	計174名
アクセス	東武東上線「坂戸駅」北口からバス<大橋行き> 「苦林」下車 徒歩約15分 東武越生線「武州長瀬駅」下車 徒歩約30分					
<教育課程等>						
<ul style="list-style-type: none"> ・開校33年目の主に知的障害のある児童生徒を対象とした特別支援学校。 ・小中高12年間を見通した系統的な指導（キャリア教育）の充実をすすめている。 ・小学部低学年では主に学年やクラスでの小集団で、小学部高学年では課題別や学年、ブロック等のグループで基本的な生活習慣を身に付け、自分自身でできる力の獲得を目指している。中学部では、集団活動や課題別グループで人との関わりを深めながら、基本的な生活習慣の確立をめざしている。高等部では生徒の実態や教育的ニーズに合わせ、全体を10程度の学習グループに分けた課題別学習の時間を設定している。また、卒業後の自立した生活を送るために必要な力を育む指導を目指している。 ・「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業づくりを展開している。 						
<学校行事・部活動>						
<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が活躍する「運動会」、「ゆずの木まつり（文化祭）」が2大行事。 ・宿泊学習、社会体験学習、修学旅行等を通して経験領域の拡大を目指している。 ・高等部、中学部では課外（部）活動を実施。 ・高等部の競技部は特体連陸上大会、水泳記録会、サッカー大会、バスケットボール大会に参加。 						
<家庭・地域との連携>						
<ul style="list-style-type: none"> ・PTA夏まつりの開催や毛呂山町社会福祉協議会イベントへの積極的な参加。 ・関係機関との移行支援会議や就労支援センターとの連携を通じた進路支援。 ・医療機関、市町福祉課、障害者相談支援センター、保健センターとの連携・協力。 ・学区教育委員会連絡協議会、学区内コーディネーター連絡会の開催。 						
<進路>						
<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度高等部卒業生進路状況 【企業就労】サービス業、製造業（食品）など 【福祉的就労】坂戸、鶴ヶ島、毛呂山等の福祉施設（作業所、就労支援） ・原則として卒業後3年間にわたりアフターケアを実施しています。 ・小学部・中学部の生徒は、それぞれ中学部・高等部等へ進学しています。 ・もろとくしんろフェアの開催。 						





埼玉県立毛呂山特別支援学校 育成方針

学校教育目標 **明るく 仲よく たくましく**

目指す学校像

一人一人を大切にする、専門性の高い、児童生徒・保護者・地域と共に生きる開かれた信頼される学校

重点目標

- 1 児童生徒の教育的ニーズに応じた指導の充実
- 2 児童生徒の心身の健康の増進と安心安全な学校づくりの推進
- 3 特別支援教育を担う教員として専門性を高める研究・研修の充実
- 4 コミュニティスクールとしての保護者や地域との積極的な連携と特別支援教育のセンター的機能の推進



家庭・地域との連携

- PTA活動
- 関係機関と連携した進路支援
- 医療機関・福祉機関との連携・協力
- 学区内コーディネーターとのネットワークの構築

研究の取り組み（令和5年度～）

全校研究テーマ

「個に応じた指導・支援の充実」
～自立活動について考える～

小学部

- ①基本的な生活習慣を身に付け、生活するための基礎的能力を身に付ける。
- ②基礎的な運動能力を高め、丈夫な体を作る。
- ③物事を認識する力や感覚を身につけるとともに、感情を豊かにする。
- ④人との関わりを通して、より自他を意識できるようにする力を育てる。
- ⑤学校生活全般を通して、個人の役割を果たし、自己肯定感を育てる。

中学部

- ①基本的な生活習慣の確立をめざす。
- ②いろいろな活動を通して、健康の保持増進と体力の向上をめざす。
- ③興味・関心を深め、認識力を高めるとともに、豊かな感情を育む。
- ④人との関わりを広め、友達と一緒に取り組む力を伸ばす。
- ⑤作業学習を通して、働くことへの興味関心を高める。

高等部

- ①基本的な生活習慣を確立し、自立した生活をおくるために必要な力を育む。
- ②健康でバランスのとれた身体づくりと基礎体力の向上をめざす。
- ③認識力を高め、自分で考えようとする意欲と物事に感動する心を育む。
- ④友達や集団との関わりを豊かにするとともに、互に尊重しあい協力できる力をつける。
- ⑤勤労意欲を高めるとともに、卒業後の進路を考える。

卒業後、子供たちが地域社会で生き生きと生活できる力をつけるため、小学部・中学部・高等部12年間の系統的な指導を行っています。